

平成21年12月期 第3四半期決算短信

平成21年10月30日

上場会社名 アサヒビール株式会社

上場取引所 東大

コード番号 2502 URL <http://www.asahibeer.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 荻田 伍

問合せ先責任者 (役職名) 広報部長 (氏名) 森田 健

TEL 03-5608-5126

四半期報告書提出予定日 平成21年11月13日

配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

1. 平成21年12月期第3四半期の連結業績(平成21年1月1日～平成21年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年12月期第3四半期	1,079,345	—	53,265	—	62,711	—	41,717	—
20年12月期第3四半期	1,079,858	△0.2	70,464	14.8	75,832	13.2	41,799	22.5

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
21年12月期第3四半期	89.74	89.70
20年12月期第3四半期	89.27	89.10

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
21年12月期第3四半期	1,398,696	570,145	40.4	1,216.86
20年12月期	1,299,058	534,627	40.2	1,122.13

(参考) 自己資本 21年12月期第3四半期 565,688百万円 20年12月期 521,594百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
20年12月期	—	9.50	—	10.50	20.00
21年12月期	—	10.00	—		
21年12月期(予想)				10.00	20.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成21年12月期の連結業績予想(平成21年1月1日～平成21年12月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,508,000	3.1	88,000	△6.9	92,000	△4.6	50,000	11.1	107.56

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無
新規 — 社 (社名) 除外 — 社 (社名)

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注)詳細は、6ページ【定性的情報・財務諸表等】「4. その他(2)簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表作成の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 有

(注)詳細は、6ページ【定性的情報・財務諸表等】「4. その他(3)四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	21年12月期第3四半期	483,585,862株	20年12月期	483,585,862株
② 期末自己株式数	21年12月期第3四半期	18,709,174株	20年12月期	18,762,163株
③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間)	21年12月期第3四半期	464,844,053株	20年12月期第3四半期	468,242,812株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、5ページ【定性的情報・財務諸表等】「3. 連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

2. 当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

【定性的情報・財務諸表等】

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間（平成21年1月1日～9月30日）におけるわが国経済は、一部回復の兆しは見られるものの、前期に引き続き雇用環境の悪化や個人消費の低迷といった厳しい環境が続いております。

酒類業界におきましては、景気低迷による生活防衛意識の高まりなどから新ジャンルが大きく伸長したものの、ビール、発泡酒が減少したため、ビール類全体の課税出荷数量は前年同期比2.4%減となりました。また、飲料業界におきましても、景気低迷の影響や夏場の天候不順などにより業界全体の販売数量は前年同期比4.0%程度減少したものと推定されます。

このような状況の下、当第3四半期連結累計期間の売上高は、ほぼ前年並みの1,079,345百万円（前年同期比0.0%減）となりました。また、利益につきましては、営業利益は53,265百万円（前年同期比24.4%減）、経常利益は62,711百万円（前年同期比17.3%減）、四半期純利益は41,717百万円（前年同期比0.2%減）となりました。

事業の種類別セグメントの概況は次のとおりであります。

酒類事業

酒類事業につきましては、多様な消費者ニーズにお応えした商品ポートフォリオの構築やブランド育成、経済環境の変化に左右されない収益基盤の更なる強化に取り組みました。

（ビール・発泡酒・新ジャンル）

ビールについては、旗艦ブランドである『アサヒスーパードライ』の更なるブランド力強化に注力しました。家庭での飲用シーンを盛り上げるためのキャンペーン「「うまい！をカタチに！」プロジェクト」の実施や、売上の一部を47都道府県の環境保全や地域貢献にご活用いただく「「うまい！を明日へ！」プロジェクト」を春・秋に2回実施するなど、ブランド価値をさらに高めるための情報発信や販売促進活動を展開しました。また、5月には『アサヒザ・マスター』を新発売し、ビール市場の活性化にも取り組みました。

発泡酒については、『アサヒスタイルフリー』の飲用機会向上を目的とした店頭サンプリングやキャンペーンを実施するなど、“糖質オフ”・“糖質ゼロ※1”カテゴリーNO.1に向けた取り組みを強化しました。また、3月には『アサヒクールドラフト』を新発売するなど市場の活性化にも取り組みました。

新ジャンルについては、『クリアアサヒ』の大規模なサンプリング活動を継続的に実施するなど、カテゴリーNO.1に向けた販売促進活動を展開しました。また、お客様の価値観の多様化にお応えすべく、2月に『アサヒオフ』、9月に『アサヒ麦搾り』を新発売するなど新たな市場の創出にも挑戦しました。

以上の結果、新ジャンルの出荷数量は前年を上回りましたが、ビールと発泡酒の出荷数量が市場全体の低迷などにより前年を下回ったため、ビール類トータルでは前年同期比3.0%減となりました。

※1 栄養表示基準に基づき、糖質0.5g（100ml当たり）未満を糖質0（ゼロ）としています。

（焼酎・低アルコール飲料・洋酒・ワイン）

焼酎・低アルコール飲料・洋酒・ワインの各カテゴリーについては、中・長期的な見地でのブランド開発、育成、強化を図ると共に、引き続き収益性の向上に取り組みました。また、安全、高品質の商品供給体制構築と安心を提供するブランド基盤の確立に努め、市場における存在感を更に高める活動を展開しました。

焼酎においては、主要ブランドである『かのか』『さつま司』『大五郎』のブランド強化に取り組み、店頭活性化などの施策を実施し、特に本年3月に再発売した『芋かのか』『さつま司』については商品取扱件数の拡大に注力しました。しかしながら、甲類焼酎の減少などにより、焼酎トータルの売上高は前年同期比9.9%減となりました。

低アルコール飲料においては、カロリー最少級※2の缶チューハイ『Slat（すらっと）』が2月の発売以降好調に推移しており、9月には新たなフレーバー『すっきり白ぶどう』を発売するなど、年間販売箱数目標の達成に向けた取り組みを推進しました。しかしながら、基幹ブランドのアイテム改廃の影響などにより、低アルコール飲料トータルの売上高は前年同期比4.6%減となりました。

※2 現在発売されている缶チューハイ市場において。（平成21年9月現在）

洋酒においては、『ピュアモルト竹鶴21年』が4月にWWA（ワールドウイスキーアワード）において世界最高ブレンドウイスキーを受賞しました。また、『ブラックニッカクリアブレンド』が27ヶ月連続で前年を上回る販売数量を達成するなど、国産ウイスキーの販売は好調に推移しましたが、輸入ウイスキーの商品ポートフォリオの見直しなどにより、洋酒トータルの売上高は前年同期比6.8%減となりました。

ワインにおいては、国産ワインでは、基幹ブランドである『酸化防止剤無添加有機ワイン』『酸化防止剤無添加ワイン物語』の強化や梅ワイン・ゆずワインのリニューアルなどに取り組みました。また、輸入ワインでは、家庭用として仏ワイン『トライアングル・ドール』、業務用として伊ワイン『ボルゴ・サンレオ』を発売するなどブランド育成を図りましたが、中高級市場の低迷や商品ポートフォリオの見直しなどにより、ワイントータルの売上高は前年同期比16.1%減となりました。

(国際酒類事業)

国際酒類事業につきましては、4月に「青島啤酒股份有限公司」の一部株式を取得し、中国における事業基盤強化に向けた戦略的なパートナーシップを締結しました。また、前年11月に「青島啤酒股份有限公司」と資本・業務提携を締結した「煙台啤酒青島朝日有限公司」につきましても、合併事業が着実に軌道に乗り始めるなど、中国ビール事業の収益性向上に向けた基盤強化を図りました。

以上の結果により、酒類事業の売上高は、ビール類の販売減少に伴い前年同期比4.3%減の697,207百万円となりました。また、営業利益は、主に製造設備の耐用年数の変更などの制度変更による費用の増加などにより、前年同期比22.6%減の51,847百万円となりました。

飲料事業**(国内飲料事業)**

国内飲料事業につきましては、「アサヒ飲料株式会社」が第3次中期経営計画の最終年度として「成長戦略」「構造改革」「新規領域への挑戦」を基本戦略として、飛躍的な成長の実現に向けた取り組みを実施しております。

成長戦略では、基幹ブランドである『ワンダ』『三ツ矢』『十六茶』及び「緑茶」、「健康」、「水」カテゴリーにマーケティング投資を集中し、継続的なブランド強化・育成を推進しております。特に『三ツ矢』は5月に新発売した『三ツ矢サイダー オールゼロ』の販売好調により前年同期比12%の増加となりました。また『ワンダ』の販売数量も堅調に推移し、9月には主力4商品『モーニングショット』『金の微糖』『ゼロマックス』『ザ・ブラック』をリニューアルし、それぞれの個性、おいしさにさらに磨きをかけました。

構造改革面では、原材料コストアップの抑制や物流効率の向上に努めるとともに、明石工場において新たにペットボトル内製設備を含む最新鋭の製造ラインを導入し、品質の向上と一層の収益構造の改革に取り組んでおります。

新規領域への挑戦につきましても、多様化するお客様のニーズやライフスタイルの変化を成長の機会と捉え、商品及び販売チャネル領域において新たな成長基盤の確立に取り組んでおります。

(国際飲料事業)

国際飲料事業につきましては、中国の「康師傅飲品控股有限公司」が引き続き好調に推移し、また、韓国の「ヘテ飲料株式会社」においては、収益構造の抜本的な改革を実施するとともに、基幹ブランドの再構築に向けた取り組みを推し進めました。加えて、4月に買収を完了した「シュウェップス・オーストラリア」については、オセアニア地域での事業基盤の確立を目指し、オーストラリア市場における地位向上に向けた取り組みを強化いたしました。

以上の結果、飲料事業の売上高は「シュウェップス・オーストラリア」の新規連結などにより、前年同期比8.1%増の265,647百万円となりました。営業損益は、のれん償却費負担増加などにより、前年同期に比べ3,122百万円減少し、1,062百万円の損失となりました。

食品・薬品事業

食品・薬品事業につきましては、「アサヒフードアンドヘルスケア株式会社」においてミント系錠菓『ミンティア』や医薬部外品『エビオス』等の主要商品が前年同期比2桁増を達成したことに加え、バランス栄養食品『1本満足バー』やカップスープ類も大幅増となったことなどにより、前期に引き続き好調に推移いたしました。

また、「和光堂株式会社」においては、主力のベビーフードではレトルトパウチ食品『ゲージキッチン』や幼児向けおやつ『すまいるぼけっと』、育児用粉乳では『はいはい』『ぐんぐん』が好調に推移したことなどにより売上を拡大することができました。また、夏以降、インフルエンザの影響で、『除菌用アルコールティッシュ』等の除菌関連商品が大きく伸長しました。

「天野実業株式会社」は国内フリーズドライ市場において圧倒的なトップ企業を目指して、事業拡大と収益性の向上に取り組まれました。通販事業において2月と6月に発売した『にゅうめん』と『瞬間美食カレー』が好調に推移していることに加え、グループ各社との協業に取り組んだことで、売上高、利益ともに大きく伸長しました。

以上の結果、食品・薬品事業の売上高は、既存2社の増収に加え、昨年下半年に新規連結した「天野実業株式会社」が上乗せとなり、主要商品の売上が拡大したことにより、売上高は前年同期比29.5%増の67,166百万円、営業利益は前期比232.6%増の1,374百万円となりました。

その他事業

その他事業におきましては、主に前年に実施した卸事業の再編により、売上高は前年同期比8.0%減の49,323百万円となりました。営業利益は主に物流事業での効率化などにより、前年同期比21.9%増の1,006百万円となりました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

(資産、負債及び純資産の状況)

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて99,637百万円増加しました。これは、主に「シュウェップス・オーストラリア」の新規連結及び「青島啤酒股份有限公司」株式の取得に伴い増加したものです。

負債は、前連結会計年度末に比べ64,120百万円増加しました。これは、主に上記M&A資金の調達により、金融債務(短期借入金、1年内償還予定の社債、コマーシャルペーパー、社債、長期借入金の合計)が増加したことによるものです。

純資産は、前連結会計年度末に比べ35,517百万円増加しました。これは、主に四半期純利益計上により利益剰余金が増加したことや豪ドルなどの為替変動に伴う為替換算調整勘定の増加などによるものです。

この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末の40.2%から40.4%に増加しました。

(キャッシュ・フローの状況)

当第3四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物の残高は15,660百万円となり、前第3四半期連結累計期間末に比べて2,359百万円増加しております。

営業活動によるキャッシュ・フローは78,890百万円の収入となりました。前第3四半期連結累計期間との比較では、主に売上債権の増減などによる運転資金の減少や法人税等の支払額の増加などにより、25,216百万円収入が減少しました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、「シュウェップス・オーストラリア」株式の取得や「青島啤酒股份有限公司」株式の取得などの支出を行い、169,160百万円の支出となりました。前第3四半期連結累計期間との比較では、121,774百万円支出が増加しました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、主に投資キャッシュ・フローでのM&A支出の資金を金融債務で調達したことにより、92,623百万円の収入となりました。前第3四半期連結累計期間との比較では、主にM&A支出の増加に伴う金融債務による調達額の増加により、147,513百万円収入が増加しました。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

平成21年度の通期の業績につきましては、平成21年7月31日に公表しました業績予想から変更ありません。

(参考)平成21年7月31日公表業績予想

	アサヒビールグループ		アサヒビール(株)	
売上高	1,508,000百万円	(前年同期比 3.1%増)	1,005,000百万円	(前年同期比 1.4%減)
営業利益	88,000百万円	(前年同期比 6.9%減)	81,000百万円	(前年同期比 11.0%減)
経常利益	92,000百万円	(前年同期比 4.6%減)	82,000百万円	(前年同期比 7.4%減)
当期純利益	50,000百万円	(前年同期比 11.1%増)	38,000百万円	(前年同期比 2.6%減)

4. その他

(1)期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

(2)簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

①簡便な会計処理

・一般債権の貸倒見積高の算定方法

一部の連結子会社は、当第3四半期連結会計期間末の貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末の貸倒実績率を使用して貸倒見積高を算定しております。

・繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められるので、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

・棚卸資産の評価方法

当社及び一部の連結子会社は、棚卸資産の簿価切下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積り、簿価切下げを行う方法によっております。

②四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理

税金費用の計算

税金費用については、当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

(3)四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

①「四半期財務諸表に関する会計基準」の適用

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準委員会 平成19年3月14日 企業会計基準第12号）及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準委員会 平成19年3月14日 企業会計基準適用指針第14号）を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

②「棚卸資産の評価に関する会計基準」の適用

「棚卸資産の評価に関する会計基準」（企業会計基準委員会 平成18年7月5日 企業会計基準第9号）を第1四半期連結会計期間から適用し、評価基準については原価法から原価法（収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）に変更しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間において、従来の方によった場合に比べて、売上総利益が2,274百万円、営業利益が1,109百万円、経常利益が68百万円、税金等調整前四半期純利益が68百万円それぞれ減少しております。

なお、事業の種類別セグメント情報に与える影響は、当該箇所に記載しております。

③「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」の適用

第1四半期連結会計期間より「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」（企業会計基準委員会 平成18年5月17日 実務対応報告第18号）を適用し、連結決算上必要な修正を行っております。

これに伴う当第3四半期連結累計期間の経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

(追加情報)

・有形固定資産の耐用年数の変更

当社及び国内連結子会社は、平成20年度の法人税改正を契機として資産の利用状況等を見直した結果、第1四半期連結会計期間より、有形固定資産の耐用年数を変更しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間において、従来の方によった場合に比べ、営業利益、経常利益、税金等調整前四半期純利益はそれぞれ4,579百万円減少しております。

なお、事業の種類別セグメント情報に与える影響は、当該箇所に記載しております。

5. 【四半期連結財務諸表】
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	15,877	12,771
受取手形及び売掛金	228,003	265,048
有価証券	—	301
商品及び製品	70,219	66,264
原材料及び貯蔵品	33,377	30,774
繰延税金資産	9,701	9,009
その他	39,958	34,218
貸倒引当金	△6,990	△6,044
流動資産合計	390,147	412,344
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	420,392	413,983
減価償却累計額	△227,282	△217,921
建物及び構築物(純額)	193,109	196,061
機械装置及び運搬具	545,137	521,651
減価償却累計額	△376,497	△347,613
機械装置及び運搬具(純額)	168,639	174,038
その他	128,432	112,343
減価償却累計額	△79,003	△66,944
その他(純額)	49,429	45,398
土地	186,252	185,201
建設仮勘定	5,825	6,090
有形固定資産合計	603,256	606,791
無形固定資産		
のれん	96,384	60,675
その他	37,109	15,696
無形固定資産合計	133,494	76,371
投資その他の資産		
投資有価証券	213,308	142,731
繰延税金資産	22,196	24,212
その他	41,089	43,253
貸倒引当金	△4,796	△6,645
投資その他の資産合計	271,798	203,551
固定資産合計	1,008,549	886,714
資産合計	1,398,696	1,299,058

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	92,625	99,674
短期借入金	187,357	95,556
1年内償還予定の社債	35,000	20,000
未払酒税	123,225	128,379
未払法人税等	17,617	22,653
預り金	19,375	22,863
コマーシャル・ペーパー	13,000	7,000
賞与引当金	7,554	2,715
その他	96,964	117,218
流動負債合計	592,720	516,061
固定負債		
社債	130,159	120,168
長期借入金	37,299	59,535
退職給付引当金	24,218	23,515
役員退職慰労引当金	577	633
繰延税金負債	4,919	6,112
その他	38,656	38,404
固定負債合計	235,830	248,369
負債合計	828,550	764,430
純資産の部		
株主資本		
資本金	182,531	182,531
資本剰余金	151,111	151,147
利益剰余金	246,214	214,189
自己株式	△29,491	△29,579
株主資本合計	550,365	518,288
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	7,797	1,111
再評価剰余金	—	1,751
繰延ヘッジ損益	△3	△3
為替換算調整勘定	7,528	446
評価・換算差額等合計	15,322	3,305
少数株主持分	4,457	13,033
純資産合計	570,145	534,627
負債純資産合計	1,398,696	1,299,058

(2)【四半期連結損益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年1月1日 至平成21年9月30日)
売上高	1,079,345
売上原価	700,392
売上総利益	378,953
販売費及び一般管理費	325,688
営業利益	53,265
営業外収益	
受取利息	235
受取配当金	2,012
持分法による投資利益	8,874
その他	3,671
営業外収益合計	14,794
営業外費用	
支払利息	3,282
その他	2,065
営業外費用合計	5,347
経常利益	62,711
特別利益	
固定資産売却益	689
投資有価証券売却益	386
関係会社株式売却益	16,091
貸倒引当金戻入額	843
特別利益合計	18,010
特別損失	
固定資産除売却損	2,882
投資有価証券売却損	403
投資有価証券評価損	636
減損損失	760
その他	396
特別損失合計	5,080
税金等調整前四半期純利益	75,642
法人税等	33,082
少数株主利益	842
四半期純利益	41,717

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

当第3四半期連結累計期間
 (自平成21年1月1日
 至平成21年9月30日)

営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	75,642
減価償却費	42,672
減損損失	760
のれん償却額	3,590
退職給付引当金の増減額(△は減少)	686
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△924
受取利息及び受取配当金	△2,247
支払利息	3,282
持分法による投資損益(△は益)	△8,874
投資有価証券評価損益(△は益)	636
関係会社株式売却損益(△は益)	△16,091
固定資産売却損益(△は益)	2,193
売上債権の増減額(△は増加)	44,960
たな卸資産の増減額(△は増加)	△1,445
仕入債務の増減額(△は減少)	△11,484
未払酒税の増減額(△は減少)	△5,150
その他	△11,577
小計	116,628
利息及び配当金の受取額	6,512
利息の支払額	△2,725
法人税等の支払額	△41,525
営業活動によるキャッシュ・フロー	78,890
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△27,599
有形固定資産の売却による収入	2,270
無形固定資産の取得による支出	△22,117
投資有価証券の取得による支出	△80,168
投資有価証券の売却による収入	39,000
子会社株式の取得による支出	△15,360
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△60,896
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出	△18
貸付けによる支出	△2,653
貸付金の回収による収入	1,839
その他	△3,457
投資活動によるキャッシュ・フロー	△169,160

(単位：百万円)

当第3四半期連結累計期間
(自平成21年1月1日
至平成21年9月30日)

財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の純増減額 (△は減少)	95,122
長期借入れによる収入	4,489
長期借入金の返済による支出	△23,024
社債の発行による収入	25,000
自己株式の取得による支出	△24
配当金の支払額	△9,529
少数株主からの払込みによる収入	542
その他	47
財務活動によるキャッシュ・フロー	92,623
現金及び現金同等物に係る換算差額	134
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	2,487
現金及び現金同等物の期首残高	12,697
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	475
現金及び現金同等物の四半期末残高	15,660

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準委員会 平成19年3月14日 企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準委員会 平成19年3月14日 企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

(4)継続企業の前提に関する注記

当第3四半期連結累計期間(自平成21年1月1日至平成21年9月30日)
該当事項はありません。

(5)セグメント情報

a. 事業の種類別セグメント情報

当第3四半期連結累計期間(自平成21年1月1日至平成21年9月30日) (単位:百万円)

	酒類	飲料	食品・薬品	その他	合計	消去又は 全社	連結
I 売上高及び営業損益							
売上高							
(1) 外部顧客に対する 売上高	697,207	265,647	67,166	49,323	1,079,345	—	1,079,345
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	13,861	1,764	1,384	39,063	56,074	(56,074)	—
計	711,069	267,412	68,551	88,386	1,135,420	(56,074)	1,079,345
営業費用	659,222	268,475	67,177	87,380	1,082,255	(56,175)	1,026,080
営業利益又は損失(△)	51,847	△1,062	1,374	1,006	53,164	100	53,265

(注) 1. 事業区分は、製品の種類、性質により区分しております。

2. 各事業の主な製品 (1)酒 類……………ビール、発泡酒、焼酎、ウイスキー他
(2)飲 料……………清涼飲料他
(3)食品・薬品……………食品事業、薬品事業
(4)そ の 他……………不動産事業、外食事業、卸事業、物流事業他

3. 当第3四半期連結累計期間における営業費用のうち、消去又は全社の項目に含めた配賦不能営業費用の金額はありません。

4. セグメント別資産の著しい金額の変動

第2四半期連結会計期間において、Schweppes Holding Pty Ltdの全株式を取得したことにより、当第3四半期連結会計期間末において、飲料事業の資産が84,673百万円増加しております。

また、第2四半期連結会計期間において、青島啤酒股份有限公司の株式を取得したことにより、当第3四半期連結会計期間末において、全社資産が67,586百万円増加しております。

5. 会計処理の原則・手続、表示方法の変更

「棚卸資産の評価に関する会計基準」の適用

「定性情報・財務諸表等」4.(3)②に記載の通り、第1四半期連結会計期間から「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準委員会 平成18年7月5日 企業会計基準第9号)を適用し、評価基準について原価法から原価法(収益性の低下に基づく簿価切り下げの方法)に変更しております。この結果、従来の方法によった場合と比較して、当第3四半期連結累計期間の営業利益が酒類事業で369百万円、食品・薬品事業で100百万円、その他事業で2百万円それぞれ減少し、営業損失が飲料事業で636百万円増加しております。

6. 追加情報

有形固定資産の耐用年数の変更

「定性情報・財務諸表等」4.(3)(追加情報)に記載の通り、当社及び国内連結子会社は、平成20年の法人税改正を契機として資産の利用状況等を見直した結果、第1四半期連結会計期間より有形固定資産の耐用年数を変更しております。この結果、従来の方法によった場合と比較して、当第3四半期連結累計期間の営業利益が酒類事業で4,631百万円減少、食品・薬品事業で74百万円、その他事業で0百万円増加し、営業損失が飲料事業で21百万円増加しております。

b. 所在地別セグメント情報

当第3四半期連結累計期間（自 平成21年1月1日 至 平成21年9月30日）

全セグメントの売上高の合計に占める「本邦」の割合が90%を越えているため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

c. 海外売上高

当第3四半期連結累計期間（自 平成21年1月1日 至 平成21年9月30日）

海外売上高が、連結売上高の10%未満のため、海外売上高の記載を省略しております。

(6)株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当第3四半期連結累計期間（自 平成21年1月1日 至 平成21年9月30日）

該当事項はありません。

「参考資料」

前年同四半期に係る財務諸表等

(1) (要約) 四半期連結損益計算書

(自 平成 20 年 1 月 1 日 至 平成 20 年 9 月 30 日)

科目	前第3四半期連結累計期間
	金額(百万円)
I 売上高	1,079,858
II 売上原価	698,769
売上総利益	381,088
III 販売費及び一般管理費	310,624
営業利益	70,464
IV 営業外収益	12,267
受取利息	211
受取配当金	1,007
持分法による投資利益	9,670
その他	1,378
V 営業外費用	6,899
支払利息	4,009
その他	2,889
経常利益	75,832
VI 特別利益	1,697
固定資産売却益	103
投資有価証券売却益	43
貸倒引当金戻入額	1,550
VII 特別損失	3,673
固定資産除売却損	1,694
投資有価証券売却損	35
投資有価証券評価損	1,202
減損損失	140
その他	601
税金等調整前四半期純利益	73,855
法人税等	32,884
少数株主損失(△)	△ 827
四半期純利益	41,799

(2) (要約) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(自 平成20年1月1日 至 平成20年9月30日)

区分	前第3四半期連結累計期間
	金額(百万円)
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	73,855
減価償却費	35,249
減損損失	140
のれん償却額	3,029
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	△ 2,180
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△ 1,385
受取利息及び受取配当金	△ 1,218
支払利息	4,009
持分法による投資損益 (△は益)	△ 9,670
投資有価証券評価損益 (△は益)	1,202
固定資産売却損益 (△は益)	1,590
売上債権の増減額 (△は増加)	58,573
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△ 9,485
仕入債務の増減額 (△は減少)	△ 11,577
未払酒税の増減額 (△は減少)	△ 1,311
その他	△ 4,256
小計	136,564
利息及び配当金の受取額	1,394
利息の支払額	△ 3,506
法人税等の支払額	△ 30,345
営業活動によるキャッシュ・フロー	104,107

区分	前第3四半期連結累計期間
	金額(百万円)
Ⅱ 投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△ 29,052
有形固定資産の売却による収入	213
無形固定資産の取得による支出	△ 2,926
投資有価証券の取得による支出	△ 12,729
投資有価証券の売却による収入	82
子会社株式の取得による支出	△ 2,904
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	2,154
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出	△ 173
貸付けによる支出	△ 2,467
貸付金の回収による収入	3,046
その他	△ 2,629
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 47,386
Ⅲ 財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△ 73,512
長期借入れによる収入	23,357
長期借入金の返済による支出	△ 40,529
社債の発行による収入	70,175
社債の償還による支出	△ 10,000
自己株式の取得による支出	△ 15,289
配当金の支払額	△ 8,904
その他	△ 185
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 54,889
Ⅳ 現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 270
Ⅴ 現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,560
Ⅵ 現金及び現金同等物の期首残高	11,741
Ⅶ 現金及び現金同等物の四半期末残高	13,301

(3) セグメント情報

前第3四半期連結累計期間(自平成20年1月1日至平成20年9月30日)

(単位:百万円)

	酒類	飲料	食品・薬品	その他	合計	消去又は 全社	連結
I 売上高及び営業損益							
売上高							
(1) 外部顧客に対する 売上高	728,600	245,817	51,847	53,593	1,079,858	—	1,079,858
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	16,137	2,397	1,122	39,679	59,337	(59,337)	—
計	744,738	248,215	52,969	93,272	1,139,196	(59,337)	1,079,858
営業費用	677,787	246,156	52,556	92,446	1,068,946	(59,552)	1,009,394
営業利益	66,950	2,059	413	825	70,249	214	70,464

(注) 1. 事業区分は、製品の種類、性質により区分しております。

2. 各事業の主な製品
- (1)酒 類……………ビール、発泡酒、焼酎、ウイスキー他
 - (2)飲 料……………清涼飲料他
 - (3)食品・薬品……………食品事業、薬品事業
 - (4)そ の 他……………不動産事業、外食事業、卸事業、物流事業他

3. 前第3四半期連結累計期間における営業費用のうち、消去又は全社の項目に含めた配賦不能営業費用の金額はありません。

6. その他の情報

(1)参考資料

2009年第3四半期決算(連結)

<損益計算書>

	第3四半期(1月～9月累計)			年間予想(7/31発表)		
		前年	増減		前年	増減
酒類事業	7,150	7,453	△303	10,050	10,196	△146
飲料事業	2,288	2,276	12	3,065	2,966	99
食品・薬品事業	701	530	171	975	817	158
国際事業	531	374	157	806	433	373
その他の	123	166	△42	183	215	△32
売上高	10,793	10,799	△5 (△0.0%)	15,080	14,627	453 (3.1%)
酒類事業	515	666	△152	810	911	△101
飲料事業	44	48	△4	73	45	27
食品・薬品事業	14	4	10	26	20	6
国際事業	△64	△37	△28	△42	△58	16
その他の	23	22	1	13	28	△14
営業利益	533	705	△172 (△24.4%)	880	945	△65 (△6.9%)
営業外損益	94	54	41	40	20	20
金融収支	△10	△28	18	△31	△34	3
その他収支	105	82	23	71	53	17
(持分法投資損益)	(89)	(97)	(△8)	(78)	(91)	(△13)
(その他)	(16)	(△15)	(31)	(△7)	(△38)	(30)
経常利益	627	758	△131 (△17.3%)	920	965	△45 (△4.6%)
特別損益	129	△20	149	39	△135	174
貸倒引当金戻入益	8	16	△7	-	6	△6
移転補償金	-	-	-	-	8	△8
商品回収関連補償金	-	-	-	-	14	△14
関係会社株式売却益	161	-	161	161	-	161
固定資産売却除却損益	△22	△16	△6	△71	△42	△29
投資有価証券評価損等	△2	△11	8	△8	△33	25
関係会社関連費用	△4	△1	△3	△35	△13	△22
減損損失	△8	△1	△6	△8	△22	14
商品回収関連損失	-	-	-	-	△14	14
前期販促費用	-	-	-	-	△31	31
その他特別損益	△4	△6	2	-	△7	7
税引前利益	756	739	18	959	829	130
法人税等	331	329	△2	449	411	△38
少数株主損益	8	△8	△17	10	△32	△42
当期純利益	417	418	△1 (△0.2%)	500	450	50 (11.1%)

<貸借対照表>

	第3四半期(9月末日)			年間予想(7/31発表)		
		前年	増減		前年	増減
総資産	13,987	12,687	1,300	14,200	12,991	1,209
金融債務残高	4,028	2,959	1,069	3,890	3,023	867

<その他>

	第3四半期(1月～9月累計)			年間予想(7/31発表)		
		前年	増減		前年	増減
売上高営業利益率	4.9%	6.5%	△1.6%	5.8%	6.5%	△0.6%
設備投資	221	208	13	370	361	9
減価償却費	427	352	75	570	474	96

2009年第3四半期決算(単体)

<ビール・発泡酒 国内販売数量>

(単位:万箱)

	第3四半期(1月~9月累計)			年間予想(7/31発表)		
		前年	増減		前年	増減
ビール	8,740	9,367	△627 (△6.7%)	12,250	12,901	△651 (△5.0%)
発泡酒	1,947	2,152	△204 (△9.5%)	2,700	2,902	△202 (△7.0%)
新ジャンル	2,193	1,760	433 (24.6%)	3,200	2,347	853 (36.4%)
合計	12,880	13,279	△399 (△3.0%)	18,150	18,150	0 (0.0%)

<損益計算書>

(単位:億円)

	第3四半期(1月~9月累計)			年間予想(7/31発表)		
		前年	増減		前年	増減
ビール	4,661	4,975	△313 (△6.3%)	6,538	6,857	△319 (△4.7%)
発泡酒	746	816	△70 (△8.5%)	1,034	1,103	△69 (△6.3%)
新ジャンル	726	581	146 (25.1%)	1,059	775	284 (36.7%)
ビール・発泡酒・新ジャンル計	6,133	6,371	△237 (△3.7%)	8,631	8,735	△104 (△1.2%)
焼酎	359	398	△40 (△9.9%)	517	527	△10 (△1.9%)
低アルコール飲料	229	240	△11 (△4.6%)	293	314	△21 (△6.7%)
洋酒	183	197	△13 (△6.8%)	257	275	△18 (△6.6%)
ワイン	80	95	△15 (△16.1%)	126	148	△22 (△15.1%)
その他酒類等	27	24	4 (15.4%)	42	32	10 (29.8%)
総合酒類計	878	954	△76 (△7.9%)	1,235	1,297	△62 (△4.8%)
受託製造	125	115	10 (9.0%)	167	146	21 (14.3%)
不動産他	13	13	△0 (△0.4%)	17	18	△1 (△5.3%)
売上高	7,150	7,453	△303 (△4.1%)	10,050	10,196	△146 (△1.4%)
ビール類数量増減(※)	-	-	△42	-	-	10
総合酒類部門売上減	-	-	△21	-	-	△18
製造原価コストダウン	-	-	20	-	-	17
物流関係コストダウン	-	-	0	-	-	2
製造原価コストアップ	-	-	△24	-	-	△34
容器構成差	-	-	1	-	-	3
販促費増	718	704	△14	961	972	11
その他	-	-	△72	-	-	△92
営業利益	515	666	△152 (△22.7%)	810	911	△101 (△11.0%)

(※)ビール類数量増減には価格改定による影響を含めて表示しております。

(注)単体決算数値は、四半期財務諸表等規則に基づいて作成しておりますが、法定開示におけるレビュー対象ではありません。

2009年第3四半期（アサヒ飲料）

<販売数量>

(単位:万箱)

	第3四半期(1月~9月累計)			年間予想(7/31発表)		
		前年	増減		前年	増減
炭酸飲料	3,282	2,887	395 (13.7%)	4,000	3,605	395 (11.0%)
果実飲料	837	867	△30 (△3.4%)	1,120	1,120	0 (0.0%)
コ－ヒ－飲料	2,722	2,581	141 (5.5%)	3,700	3,590	110 (3.1%)
お茶飲料	2,414	2,701	△286 (△10.6%)	3,400	3,472	△72 (△2.1%)
健康・機能性飲料	579	675	△96 (△14.2%)	770	795	△25 (△3.1%)
ミネラルウォーター	502	526	△24 (△4.6%)	750	678	72 (10.6%)
その他飲料	46	52	△5 (△10.1%)	100	116	△16 (△13.8%)
仕入品	917	871	46 (5.2%)	1,160	1,148	12 (1.0%)
合計	11,301	11,160	141 (1.3%)	15,000	14,528	472 (3.2%)

<損益計算書>

(単位:億円)

	第3四半期(1月~9月累計)			年間予想(7/31発表)		
		前年	増減		前年	増減
炭酸飲料	592	520	72	718	646	72
果実飲料	143	153	△10	196	196	0
コ－ヒ－飲料	590	561	29	804	779	25
お茶飲料	389	436	△48	547	560	△13
健康・機能性飲料	103	124	△20	141	145	△4
ミネラルウォーター	83	88	△4	125	113	12
その他飲料	26	34	△8	44	54	△10
仕入品	190	183	7	245	242	3
売上高	2,115	2,099	16 (0.8%)	2,820	2,736	84 (3.1%)
販売数量増減	-	-	15	-	-	54
製造原価コストアップ(※1)	-	-	△17	-	-	△29
コストダウン	-	-	23	-	-	29
品種・容器構成比差他	-	-	2	-	-	△2
広告・販促費増	-	-	△11	-	-	△7
その他経費増他	-	-	△19	-	-	△24
営業利益	58	66	△8 (△11.9%)	90	70	20 (27.8%)

【備考】

※1 原材料(缶7.5億円ほか)